

〈研究主題〉 主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり
～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて（2年次／2年計画）～

今年度は、教師が児童生徒の学びを見取り、見取ったそれぞれの解釈を共有し、「授業づくりのポイント」を基にしながら、チームで主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりに取り組んでいます。今回は、小学部の公開研究会の提示授業について紹介します。

● ● ● 小学部 4年 生活単元学習 「できるんジャー！やるんジャー！⑤
～クリスマスパーティーでピザを振る舞おう～

授業について

本単元の主な学習活動は、ピザの試作・試食を中心に、意見交換、タブレット端末を活用した調べ学習・アンケートの作成などである。本時は、小学部児童に尋ねたアンケートで挙がった食材を用いて、児童4人が一人1枚ずつ試作した食材の異なるピザを食べ比べる。そして、小学部クリスマスパーティーで振る舞うピザの食材を、一つに決める授業である。

抽出児童について

友達と関わることを好み、思ったことを話すことができるが、発表場面では、自分の意見をまとめられず思いついたままに話し過ぎてしまうことがある。



授業研究会から

授業者が授業場面で気になった抽出児童の言動を、協議の視点として設定。この視点に沿って青色の付箋紙に「子どもの言動」、ピンクの付箋紙に「解釈」を記入しました。黄色の付箋紙には、授業改善につながる意見やアイデアを記入しました。協議を行い、「次につながるキーワード」をまとめました。

協議の視点 「話したいことに優先順位をつけ、選んだ理由を 観点に触れながら発表することができたのはなぜか」	授業改善案
教師が記した、自分の発言が書かれた付箋紙をじっと見つめていた。そこから付箋紙を3つ選んで、1～3と優先順位が書かれた枠に貼り、発表シートを完成させた 自分の話したことが付箋紙に書かれていたり、後から発表シートの枠が提示されたりしたことで「整理する」ことに集中できていたのではないかと 発表シートを見ながらスムーズに発表した 発表シートになかった4つ目の理由を、発表場面で付け足して話した 繰り返しの学習で見通しがもてている。付箋紙があることで安心感があったのではないかと 友達が付箋紙に書かれていないことを発表し、褒められているのを見て「自分も4つ話したい」という気持ちになったのではないかと	体験と感情を擦り合わせながら語いを増やしていく活動の継続 今は教師と確認しながら観点を分けているが、子ども同士でワークショップや話し合いを行って観点を分けたり、子ども同士で話し合う場を設けたりしてはどうか クリスマスパーティーに向けて、子どもたちから出た観点に関するキーワードをチラシに入れて作ってみてはどうか 発表することを文章化して整理してはどうか 子どもたちから出た言葉をノートや写真等、子どもの手元に残る形で貯めてみてはどうか

「次につながるキーワード」

- 自分の思いを相手に伝える言葉にする
～これまでに出了たキーワードを活用・文章化～
- 児童のねらいに応じて「考える→発表する」の過程を工夫する
～児童同士の話し合い・発表シートの工夫～



【指導助言】 秋田県総合教育センター支援チーム 主任指導主事 島津 憲司 氏

○授業全体について

子ども達は観点に沿って話すことに前のめりで行き組んでいた。児童のつぶやきが消えないように付箋に残したり、優先順位をシートに示したりするなどの、見取りから引き出した手立てが有効であった。

「みんなで決める」ためのお互いの関係性ができている。本時は多数決というやり方で決めていたが、集団の学習であるからこそ出くわした“生の問題”として貴重な話し合いの場面だと捉えて、話し合いを通しピザを1つに決めるなどの活動などにもつなげていけそう。抽出児童であれば、生活経験から、教師の仲立ちの在り方によって複数の味を1枚に乗せるなどの気づきなども出るかもしれない。

自分が発表することにエネルギーを注いで満足してしまい、友達の発表内容を覚えていない場面があった。発表時の手立てを精選してすることで、余裕をもってやりとりを楽しむことにも気持ちが向けられるかもしれない。

○抽出児童について

授業者から「抽出児は、マイナス的な行動が他の時間に比べ生活単元学習の授業の中ではあまり見られない」という言葉があった。“見取り”となると、児童のマイナス的な行動に注目しがちだが、よい行動に対する見取りについても整理しておくこと、授業づくりの話し合いがより有意義になるのではない。よい行動の見取りも試みて、ほかの学習場面でも生かせそうな有効な手立てを洗い出してみたい。

○今年度の研究について

見取りを丁寧に職員間で共有することを積み重ねたことで、次の支援として生かされ、児童との関わり方など授業改善に確実に繋がっている。合わせて、集団で学ぶよさなど生活単元学習としての授業づくりのポイントを改めて押さえることも大切になってくる。見取りの在り方と両輪しながら、授業づくりのポイントを整理し、さらなる授業改善につなげてほしい。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバック）と児童の変容

○自分の思いを相手に伝える言葉にする

アプリで、クリスマスパーティーで振る舞うピザのチラシを作成した。作成の際には、これまでの学習で出たキーワードがまとめられている観点表（「味」「食感」「香り」「その他」に分類された表）を見ながら、どの言葉をチラシに載せると分かりやすいか考え、相手に伝える言葉に変えて記載することができた。



○児童のねらいに応じて「考える→発表する」の過程を工夫する

クリスマスアレンジを決める活動では、タブレット端末で調べ、実際に生地や食材を切ってアレンジの仕方を決めた。授業のねらいを『作りやすさ』を考えてアレンジの仕方を決める」としたことで、生地を星型に切るなど難しいアレンジもあったが、お互いに助け合いながら「難しい」や「時間がかかる」など実体験を伴った意見を伝え合う自然な話し合いが行われていた。実際に体験しながら話し合いが行われたことで、発表場面では話し合いで友達が話していた言葉を使って発表したり、「〇〇さんは上手にできたが、僕には難しかった」など友達の様子を踏まえて理由を発表したりする姿が見られた。

